

# 宮古島環境クラブ設立

## ヤーバル 森公園 14日にサガリバナ植樹

宮古島から自然と環境の保全を目指して実践活動と情報を発信するNPO団体の宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)が昨年12月に設立。水辺環境の保全、人材育成などの活動を展開していくが、14日には下地嘉手苅のヤーバルやすらぎの森公園(しもじ長生園横)で「ヤーバル公園水辺の植樹ワークショップ」を開催する。当日はサガリバナを植樹することにより、大きく成長して花実をつけるまで世話をする管理者を募集している。

## 管理者を募集



水辺環境の保全活動で植樹されているサガリバナ。残りは14日に植樹を予定＝下地嘉手苅のヤーバルやすらぎの森公園

同クラブは、主に宮古島市をフィールドに水辺の自然と環境の保護・回復の実践、環境教育プログラムやエコツアーの提供、教材開発、環境情報の提供、エコツアーガイドや指導を養成する人材育成などを地域や

学校、企業、行政機関と一緒に活動を展開していく。サガリバナを植樹する場所に選んだ同公園は、2005年度に旧下地町が整備。園内のほぼ中央部に半円状をした防火貯水池があり、池内にはヒメガマ、ススキなどが生育している。その周りにはチガヤなどの草が生えており、市によって草刈りが定期的に行われている。

化活動を目指す。サガリバナの苗は01年におきなわ環境クラブと宮古島上水道企業団が白川田水源地構内に植えた約400本の一部。予定している120本のうち一部は植樹しており、1本1本には管理者のネームプレート(陶器で作り、プラスチックのくいにネジ止めしている)をつけている。下地さんは10年余、沖縄環境クラブ宮古支部で活動して、このほど独立。今回の活動の成果について「私たちの活動の成果について、私たち一人ひとりが自然と環境への認識(行動へ結びつく理解)を深める学習の場として、夜の花見を楽しむことでやすらぎを与えてくれる場として「ヤーバルやすらぎの森」が役立つと期待できる。また、サガリバナが成長して開花をライトアップすることで宮古島における名所が一つ加わることを期待できる」と強調する。14日は午前10時から始まる。管理者の申し込みは一人3本まで可能。問い合わせは、宮古島環境クラブ(73・5307)。

今回の植樹するサガリバナ一本、一本には管理者を決め、除草や施肥など花が咲き実をつけるまで各自が保育管理をしていく水辺の緑

# 投稿

水の自然と環境にかかわる者の一人として、宮古には淡水(陸水・真水)の水面が不可欠と考える。私が中学3年生の12月、宮古でテレビ放送が始まった。メ

コン川に浮ぶ小舟を漕ぐ漁師の姿がOHKの画面に映し出され、これを見て「お

じい、これは川だよ」と言う

うと、当時90才の祖父は「ステー(まさか)、クヤー

イムン(これは海だ)」だと言

い張って譲らなかった。宮古島には地下水は豊富だが、湧き水や井戸水として

垣間見るだけで、川や湖として水面に触れることができない。宮古島を出て沖繩

本島に住み、大人になった今でも、県外(本土)に行き、列車の窓から川や湖、

水田の広がりを目にする。子どものようにはいしゃいしまし

ょう。川や湖のない宮古島では、人が造った池や沼、井戸、

自然の湧水など、水面が見える淡水(陸水・真水)の水

辺が島の植物や動物たちの生育・生息する大変重要な

空間である。そして、これらの水辺は、私たちに安らぎと潤いを与えてくれる。属をそろえたい。そして、

## サガリバナの浮かぶ水面を！

宮古島環境クラブ

下地 邦輝

宮古島は、稲作からサトウキビなど畑作への転換や農業の基盤整備で多くの水面を失った。島から消えて水辺の植物と小動物が少なくないと専門家は言う。

そこで宮古島環境クラブ(MEC)は、ヤール公

園(しもじ長生園横)を起

点に宮古の水文化創出を計画している。まずMEC最

初の活動として、この公園

をヤール公園のサガリバナ(バリントニア)園づくりをめざして、昨年12月から来る4月14日(日)午前

10時~11時半の間、サガリバナ127本とゴバンノア

シ3本、ベニサガリバナ5本の合計135本を植樹す

る。できれば世界に約15種あるサガリバナ(Barringtonia speciosa)を

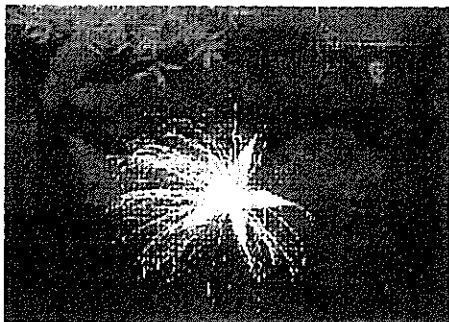
増やしたい。そして、

島の農業が変化したことで、自然と環境、特に地表と地下の水環境が大きな影響を受け、地下(水道)水の硝酸態窒素濃度上昇が大きな問題となった。しかしながら、宮古島市は「環境のピンチをチャンスに替え」、重要施策の『エコアイルランド構想』と『環境モデル都市』へとつなげている。MECは宮古島市における活動をとおして、次のことを提案し、関係者へ働きかけたい。

①地下ダムの水を畑にまく前に、水面に触れられるような演出をすること。例えば、ファームポンドへ溜める前に危険のない遊水地か湿地の水遊びができる空間を造りなど。

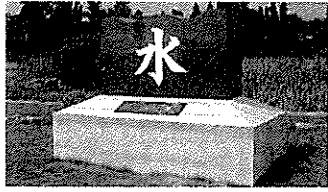
②首里城に隣接する『龍潭池』や識名園の『心字池』のような庭園を、琉球石灰岩と高度低減化施設で産出される真っ白な炭酸カルシウムを用いて、歴史に残る

宮古ならではの水を用いた庭園造りなど。宮古島には今でも環境、とりわけ水環境を学ぶのに適した施設や物(資源)が少なくない。例えば、地下ダムと資料館、ダム公園を含む一帯、博物館と大野山林、浄水場と水源池、資源リサイクルセンター、マンガロープ木道、漁港、バイオエタノール製造施設、泡盛工場……。これらの資源を組み合わせ活用して、人の五感を刺激する体験型のプログラムであれば、宮古島は楽しい環境学習の場できると宮古島環境クラブ(MEC)は確信している。



## 投稿

国道390号線の下地と下野の境目、旧下地町によって造られた『ヤールバ』やすらぎの森公園がある。園道を老健施設の方へ向曲がり奥へ入ったところに多目的広場があり、その周りを包むように松林が広がる。広場と松林の一角が公園になっている。多目的広場のほぼ中央には、半円状をした防火貯水池がある。水がもれないシートを張って造



た池は浅く、木の柵で囲まれた内側にはヒメガマが生え、それらの茂みのわずかな水面が水鳥たちの楽園になっている。川や湖のない宮古島では人が造った池や沼、井戸、自然の湧水など、水面が見える淡水

(降水・真水の水辺が島の植物や動物たちの生育生息する大変貴重な空間である。そしてこれらの水辺は、私たちに安らぎと潤いを与えてくれる。宮古島環境クラ

## ヤールバル公園を宮古の水文化の起点に！

宮古島環境クラブ 下地 邦輝

プ(MEC)は島で数少ない水辺の中でこのヤールバル公園を宮古の『水文化』の起点にしたいと考えている。『文化(culture)』とは、人間が手を加えて形

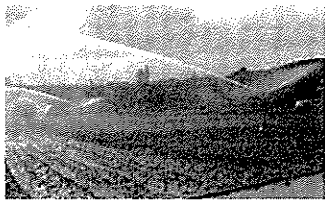
めた(2002年)日本地下水学会秋季講演会宮古島大会が開催された。その大会で『環境と調和した島嶼の地下水とその利用を考えたテーマ』のシンポジウ

な問題となった。当時、上水道企業団や広域圏事務組合を中心とする『宮古島地下水質保全協議会』が結成され、汚れの原因解明調査と水質モニタリングが始まり、水質保全に向けた様々な地上・流域対策がとられた。保

全策は合併後の現在も続いており、これらの取り組みを原点に今日の『コアイランド構想』と『環境モデル都市』と『環境モニタリング』と『環境のピンチをチャンスに替えた』(これを宮古島市の水文化の成果だと確信している)。

忘れてはならない方々だと思ふ。この紙面から、哀福を祈りたい。地下水保全に向けた啓発活動として平成2年から15回開催された『天女の水まつり』も、宮古島市が誇る水文化の成果の一つといえよう。

ガリバナ(ハリントニア)をそろえたい。ヤールバル公園のサガリバナが成長して、梅雨明けの慰霊の日(6月23日)から毎晩花が咲き満開を迎える約2週間、毎年ハリントニア・フェスティバルを計画したい。宮古島発の水環境まつり(水文化)として、『天女の水まつり』復活を兼ねた『フェスティバルの美現・定着をめざしたい』。そして満開のハリントニアの下、究極のバイオエナジー『宮古の酒』で乾杯することを夢見たい。



地下水保全の取り組みで、合併前の平成17年度まで毎年夏に開催された『天女の水まつり』と地下水協のあった宮古広域圏事務組合の役割が重要だった。また、今は鬼籍に入った安田さんと二木さんも宮古島の地下水を語り、

4月14日(日)午前10時から11時30分の間、サガリバナ17本とコバンアッシュ3本、ニサガリバナ5本の合計35本を植樹する。できれば世界に約15種あるサ

# サガリバナの苗植樹

宮古島環境クラブ

ヤーバル公園 管理者決め生育見守る

第2回宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)ワークショップ・ヤーバル公園水辺の植樹が14日、下地字嘉手苺のヤーバルやすらぎの森公園で開かれた。雨が降るあいにくの天気の中、約40人が参加し、サガリバナの2年苗36本を植樹したほか、すでに植樹していた11年株の生育を見守る管理者を決めた。

同クラブは「宮古島

市民によるヤーバルやすらぎの森水辺緑化事業」を実施して、今回はその一環として植樹が行われた。参加した下地敏彦市長は「木を植えるにはこういう天気がいちばん良い。島に緑を増やすため、公園にサガリバナを植えよう」と思いは

大変素晴らしいと思ふ」と激励。県森林緑地課の長間孝課長は「全県緑化運動に取り組んでいる県にとって、皆さんの活動は頼もしく思う」とあいさつした。

下地市長らによる記念植樹に続き、参加者たちはあらかじめ決めら



記念植樹を行う下地市長(左)ら=14日、ヤーバルやすらぎの森公園

れた場所にサガリバナの2年苗をスコップなどを使って植え替えた。今回、植樹した苗と、すでに植え付けていた11年株95本には一本一本に管理者を決め、名前を記した陶器製のフ

リートが付けられた。下地会長は「自分で植え、管理すること、成長を見守ることは楽しい。2カ月に1度、ワークショップを開くので、勉強しながら育ててほしい」と語った。

ヤーバル  
森公園

# サガリバナ植樹、管理へ

## 市民ら「花見楽しみ」

### 宮古島環 水辺緑化事業を展開

宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)は14日、下地嘉手苺のヤーバルやすらぎの森公園(しもじ長生園樹)で第2回ワークショップ公園水辺の植樹を行った。会員や市民ら約50人が参加し、サガリバナなどを植樹。また移植済みのサガリバナの管理も決定した。雨の中の植樹となったが、参加者らは夜の花見を楽しみにしながら、ていねいに苗木を植えた。

同クラブは、県の緑化助成事業「うまんちゅ協働の花と緑の美しい島づくり事業」の活動として市民によるヤーバルやすらぎの森水辺緑化事業を実施。同公園内の防火貯水池周辺にサガリバナなどを植樹し、市民らを進めている。午前10時からのセレモニーでは横山幸子副会長があいさつし、宮古島市の下地敏彦市長も駆けつけ、会員らを激励して活動の成果に期待を込めた。

植樹の後、参加者らは防火貯水池周辺にサガリバナ(2年苗)36本を植樹したほか、ゴバンノアシ3本、ベニサガリバナ5本も植えた。また、植樹したサガリバナや移植済みのサガリバナ(1年苗)の管理も決定。この日は雨の中の植樹となったが、参加者らは鍬やスコップなどを使って苗木を植え、ていねいに土を被せていた。

下地会長は「ヤーバル森公園の素晴らしい水辺周辺でサガリバナを育てていくことは宮古の水環境に理解を深めていくことになる。理解や認識していくことが環境対策になり、何が良いか悪いかが分かれば自然保護につながる。大いに意義のあるワークショップだった。ここを出発点に宮古の水の文化に頑張っていく」と意欲を見せた。

同クラブではサガリバナが成長すれば、梅雨明けの「慰霊の日」(6月23日)から毎晩花が咲き満開を迎える約2週間、花見を楽しむフェスティバルを開催する予定だという。



ワークショップ公園水辺の植樹でサガリバナを植えた参加者たち  
=14日、下地嘉手苺のヤーバルやすらぎ公園

問い合わせは、宮古島環境クラブ(73・53307)。

# 植樹で終わらない

## 地下水保全へ管理



サガリバナを植樹する参加者ら14日、宮古島市下地のヤバル公園

### 宮古島環境ク 市民と催し

【宮古島】宮古島市民らでつくる任意団体「宮古島環境クラブ」(下地邦輝会長)は14日、宮古島市下地のヤバルやすらぎの森公園で市民を対象にしたワークショップ「ヤバル公園水辺の植樹」を開催した。市民約50人が参加しサガリバナを1人1本ずつ植樹した。参加者は植樹したサガリバナの管理者となり、2カ月に1回のワークショップなどを通して育て、宮古島の緑化や地下水保全に取り組む。

同クラブは2009年12月に設立され宮古の生

活用水、農業用水である地下水の汚染防止につながる植樹活動を続けている。ヤバル公園にはこれまで、14日の分も含めて135本を植えた。14日のワークショップはあいにくの雨天となったが、参加者は雨具をまとい、サガリバナの2年苗を丁寧に植樹。自らの氏名が書かれたプレートを設置した。

参加者の古波蔵孝子さん(56)は孫の剛輝君(5)と一緒にサガリバナを植樹した。孝子さんは「宮古は森林が少ない。もっと緑が増えればと思い参加した」、剛輝君は「植えて楽しかった」と話し、笑みを浮かべた。

下地会長は「市民が植樹、管理する中で宮古における地下水の大切さや環境への認識を深めてほしい」と語った。

次回のワークショップは5月に実施する。同ク

ラブは随時、サガリバナの所有者となる植樹参加者を募集し多くの参加を呼び掛けている。問い合わせは宮古島環境クラブ☎0980(73)5307。

## 花咲く島に 植樹で汗

### 水守る大切さ 植物から学ぶ

宮古島環境クが46本

【宮古島】宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)はこのほど、市下地のヤールやすらぎの森公園で、第2回同公園

水辺の植樹ワークショップを開き、サカリバナなど計46本を植樹した。写真。

県の緑化助成事業「つまんちゅ協働の花と美しい島づくり事業」の助成を受けて進める「宮古島市民によるヤールやすらぎの森水辺緑化事業」の一環。同クラブは、宮

古島の自然と環境の大切さを理解することを目的に2009年12月、同公園内にサカリバナ90本を植樹。今回は市民ら約50人が参加し、12月に植えた90本の管理者も決めた。下地会長は「宮古島は地下水のため、目に見える水辺が少ない。表に見える水辺を通して、水の重要性や水を守る大切さを知ってほしい」と話した。同クラブは今後、同公園以外でも植樹を行う方針。

